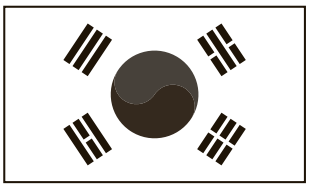
韓国
海外散歩



百済遺跡巡りと韓国の食を楽しむ旅

三枝　順三

韓国料理は美味しいよね。韓国は仕事で数回行ったけど、観光はしていないね。そういえばTさんは何時まで韓国に居るんだろう。Tさんが帰国する前に尋ねてみようよ！

といった具合で、酒宴の席で「百済遺跡巡りと韓国の食を楽しむ旅」が決まった。

海外旅行の経験豊富なIさんが参加者の日程調整、旅程、航空券やホテルの予約とすべて面倒を看てくれ、小生はただ決められた旅程に従うだけという全く安易な参加だ。

6月15日

9：30に成田空港第一ターミナル4階のAir Busanカウンター前で日本からの参加者3人が集合し、Tさんとは大田で合流の予定。初めてのLCC利用であったが、座席サイズは大手航空会社の国内線と変わりなく、飛行中に軽食とソフトドリンクが提供され予想以上の快適なフライトであった。

成田から約2時間半のフライトで大邱空港へ到着。大邱空港は軍事空港として共用なので写真撮影禁止との機内アナウンスがあり、韓国は未だ戦争前線にあることを再認識する。大田まではKTXを利用するため、空港から東大邱駅へ向かう。

東大邱駅からKTXで、約40分で大田駅に到着。なお、KTXの客車座席は中央部分で前後方向に別れていて、初期の東北新幹線客車両を思い出した。

大田駅でTさんと合流し、地下鉄で、大田広域市西部の儒城（ユソン）温泉に向かう。儒城温泉は由緒ある温泉地とのことだが、Tさんが勤務する忠南大学のキャンパスもこの街に所在する。予約したホテルに到着すると外壁に「日本のお客さまに愛用されています」と日本語で表示されているのには笑う。ホテルにチェックインしたのは夕方であり、直ちにTさんお勧めのレストランへ向かう。

Tさんおすすめの挽肉や合鴨の料理を注文すると、たくさんの副菜がテーブルに載りきらないほど運ばれてくる（写真1）。おばちゃんが愛想よくてきぱきとテーブルの上を整理してくれるので、何品でたかは判らない。野菜たっぷりでいずれの料理も美味しい。これらの料理を楽しみながら、韓国風にビールに焼酎を加えて飲み、またマッコリもたくさんいただく。食事を楽しんでいると、我々より後に来た客も含め周囲の客がどんどん減って、長居しているのはおばちゃんグループと我々だけとなる。韓国のレストランでの食事マナーは注文したものをどんどん食べて、サッサと帰るのだろう（？）と4人で推測する。韓国訪問初日から美食美酒にありつけ、旅行中の食事の楽しみが膨らむ。

写真1 大田のレストラン：供された料理

写真2 扶蘇山

泗沘楼　泗沘楼から白馬江・遠景を望む

写真３ 扶余定林寺址

蓮池から五層石塔、講堂を望む

講堂内石仏

写真４ 甕だしマッコリ

6月16日

朝7時過ぎに連れだって散歩しながら、おいしい朝食が食べられそうなお店を探す。賑わっているお店に入って、もやしたっぷりのお粥をオーダーする。熱々のお粥とカクテキキムチの相性が良く美味しい。朝から幸福な気分。

チェックアウト後に忠南大学へ向かう。広大な忠南大学キャンパスの端にある附属動物病院前でTさんと待ち合わせて、獣医学部内の彼のオフィスや実験室を案内してもらう。Tさんを招聘した教授が大きなグラントを持っているので設備は充実し研究環境は良いとのこと。臨床研究室近くの廊下で猫が徘徊しており、獣医学部らしさを感じる。また、土曜でも、獣医学部の学生が授業を受けていた。忠南大学はソウル大学と肩を並べる優秀な国立総合大学で、学生数も2万5千人超とのことだ。

見学後にTさんお勧めの韓国辛麺を食べられるお店に行く。11時と時間が早いこともあり、まだ開店していないので、辛麺を諦める。次の目的地扶余（プヨ）行のバスに乗るために、大田郊外のバスターミナルへ向かう。バス出発まで30分余りあるのでターミナル内の食堂でビビンバを食べる。

大田バスターミナルから2時間弱で扶余バスターターミナルへ到着。

扶余豆知識（KONESTエリアガイドによる）

扶余（プヨ）は百済時代（紀元前18年～紀元660年）の後期、その全盛期から滅亡までの約120年間（538年～660年）首都であった。王宮・泗沘城（サビソン）は、都の中心部である扶蘇山の麓に位置し、街全体を取り囲む土城・扶余羅城が防壁として王都を守護していた。

百済の武王（生年不詳～641年）は、中国との外交に力を注ぐなど百済の発展に努め百済の全盛期を迎えたが、その子、義慈王は軍事を強化し領土を拡大していったものの、やがて享楽に溺れ忠臣の諫言にも耳を貸さなくなり、国を衰えさせた。その間に敵対していた隣国新羅では武烈王が即位し、百済の隙をついて唐の金庚信将軍ら率いる18万の大軍を百済へ攻め込ませた。義慈王は泗沘城から逃れるが、扶蘇山城と泗沘城の陥落によって百済は滅亡した。

ホテルに荷物を置いて、まず扶蘇山へ向かう。扶蘇羅城の一部を垣間見るが、麓に王宮跡を想起させる建物は見いだせない（下調べが悪くどうも裏口のゲートへ行ってしまったようだ）。入山料を払って扶蘇山へ入山。すぐに西腹寺院跡との表示があるが狭い平らな草地があるだけ。木陰を選びながら緩やかな登り道を進むが、山頂迄遺跡らしいものはない。山頂は視界が開け、白馬江や遠くの山の稜線を望めることができる（写真2）。山頂にある泗沘楼で休んでいると散歩に来ていた女性が日本語で話しかけてくれ、皆の写真を撮ってくれた。山頂から白馬江に浮かぶ百済時代の装いをした観光船が見えたので、下山して観光船に乗ろうということになり乗船場を目指すが、アップダウンがきつい山道で方向を間違え、結局乗船場所には行けなかった。観光船を諦めて定林寺址に向かう。

定林寺址（五重石塔・石仏坐像）豆知識（KONESTエリアガイドによる）

百済王国の仏教文化がもっとも花開いた泗沘時代（538年～660年）に、都の中心に百済王室のもっとも重要な大寺院だったとされる定林寺（チョンニムサ）は建設された。百済時代の寺名は不明だが、高麗時代に再建されたた時の銘文により定林寺址とされている。現在、寺院そのものは残っていないが、建物を南北一直線状に配置した典型的な百済様式の寺院で、金堂址、中門址、回廊址、講堂址などが確認・保存されている。中央にそびえる五層石塔は百

写真５国立扶余博物館

前庭の石像

国宝 金銅大香炉

写真６百済文化団地

「泗沘宮」

入口「正陽門」

「陵寺」講堂内

済時代から1400年の歳月、雨風に打たれながらその姿を現代までとどめており、2015年にはユネスコ世界文化遺産にも指定された国宝。

入場門をくぐると広大な敷地に蓮池、五層石塔と講堂が見える（写真3）。百済時代は仏塔建築が木造から石造に移行したとされ、五層石塔は韓国の石塔の元祖なのだという。講堂は再建され、百済滅亡後の高麗時代に再建した時の本尊とされる石仏がおかれているが、損傷と摩耗が著しく、一見稚拙な印象を抱いた。回廊址・中門址と金堂址は当時の配置を示していたにすぎない。

定林寺址に隣接して博物館があり、定林寺の模型、発掘物や当時の寺院建設方法を展示していたが、ほとんどの説明がハングルだけなのでよく理解できない。

扶余の市街に戻り、中央市場近くで夕食の場所を探していると、ビルに挟まれた広場に、多くの屋台があり市民が集ってテーブルや椅子で飲食しており、何やら祭りのようだ。屋台を覗くと種類も豊富で美味しそうなものがたくさんある。美味しそうなゆで豚と天ぷら、もちろんビールやマッコリも買って、我々も仲間に加わる。広場の仮設舞台で寸劇を演じており、そこに集った老若男女は大いに楽しんでいたが、韓国語が判らない我々は全く理解できなかった。

夕闇迫り、ホテルに戻る途中で、薬缶からぐい飲みにマッコリを注ぐ看板を掲げた居酒屋（実は、出かける前に、気になっていて是非試したいと秘かに思っていた）へ繰り出す。隣の席のグループがつまみにしているひと皿と、一番高額なマッコリを注文する。甕の中から柄杓で掬い上げたマッコリが供され、変形したアルミボールで飲む。マッコリはプチプチと発泡しておりほのかに甘くておいしい（写真4）。へべれけに酔い、何時にどうやってホテルに戻ったか記憶にない。

6月17日

まずは国立扶余博物館へ向かう。国立扶余博物館へ到着すると、開館は10時とのことなので、開館を待つ間、前庭に展示された百済時代の石像（写真5）を見ていると、奈良明日香村にある亀石等を連想させる。百済の石像と明日香村に散在する石造物の関連は判らないが、勝手に百済と倭国との交流に妄想を膨らます。開館と同時に入場し、扶余の古代文化、泗沘時代、百済の仏教文化等の展示をゆっくり鑑賞する。この博物館では日本語の解説もあり、理解がしやすい。また、当時の瓦製造工程・技術の展示があり、かなり技術が進んでいたことも知った。百済が倭国へ仏教や先進技術の伝達で重要な役わりを担っていたことを再認識する。館内はフラッシュをたかなければ撮影可能ということで国宝の金銅大香炉を撮影する（写真5）。

11時過ぎに、国立博物館からテーマパーク「百済文化団地」へ移動。

「百済文化団地」は2010年にオープンとのこと。この文化団地は「泗沘宮」、「陵寺」、「古墳公園」、「生活文化村」から構成されている。「正陽門」と書かれた大きな門から入場すると再現された広大な泗沘宮の前庭（写真6）に圧倒される。次いで五重の塔もある「陵寺」に進み、講堂に入ると仏像と香炉が配置されている。「陵寺」から宋山里古墳群を模した「古墳公園」を巡った後に、「生活文化村」を訪ねる。ここでは百済時代の砦や家・屋敷を再現しており、薬師、

写真７ 百済文化団地「生活文化村」

写真８ サムゲタン

芸人、機織り、農家等それぞれの職業に特徴的かつ機能的な家の構造が再現されていた。

「生活文化村」内の休憩所で昼食。店のおねーさんに勧められるままに、チジミ、韓国風餃子、蒸し春巻を注文しビールと栗のマッコリを飲食する。栗のマッコリは薄い黄色を呈し栗の香りがしておいしい。公州・扶余地方は栗の生産が盛んで栗マッコリが特産であるとのことだ。食後に展望台「済香楼（チェヒャンヌ）」に上がると生活文化村の全貌を俯瞰できた（写真7）。その後は文化団地内の展示館内を見る。館内で漢字を墨書し販売している場所に人が集まっていた。韓国では漢字を使用しなくなったが、“書道"への興味は残っているのだろうか？

百済文化団地から扶余バスターミナルへ。Tさんは大田へ戻り、他の3人は公州（コンジュ）へ向かう。扶余から約40分で公州に到着。ホテルへチェックインすると、オーナーが日本語で「自分は日本で学位を取得し、公州の大学で数学を教える大学教授であったが、今はリタイアしてホテルを経営している」と話してくれた。また、この辺りは公州の旧市街であり、近くに市場があるので行ってみたらと説明してくれた。旧市街のせいか、各家の表札は漢字表記が多い。

夕食を求め3人で街へ繰り出す。徘徊しながらレストランを探していると、店の外壁に焼肉やサムゲタンの絵を掲げる店があり、外から覗くと、客も多くなかなか繁盛しているようなので入店する。メニューを見てもハングルを理解できずオーダーがうまくいかないが、何とかサムゲタンを注文。ビールやマッコリを飲みながら待っていると、熱々の鍋が供される（写真8）。ぐつぐつ煮え立つ鍋を口の中を火傷しながら味わう。美味しい。

6月18日

8時過ぎに韓国らしい朝食を求め、ホテル近くの公州山城市場内を散策する。市場では開店準備中で人々は忙しく働いているが、市場内には朝食を食べられるような店がないので表通りにでる。朝食を供する食堂に入ると、食事中のおじさんが、この店は美味しいよと、言いながらお店のオモニを呼んでくれる。おじさんが自分の食べているものを勧めてくれたのでそれを注文すると、熱々辛味のもつチゲが供された。汗をかきながら完食したら、食後にオモニがコーヒーをサービスしてくれた。

そのお店から公山城は近いので、ホテルに戻らずそこから徒歩で向かう。

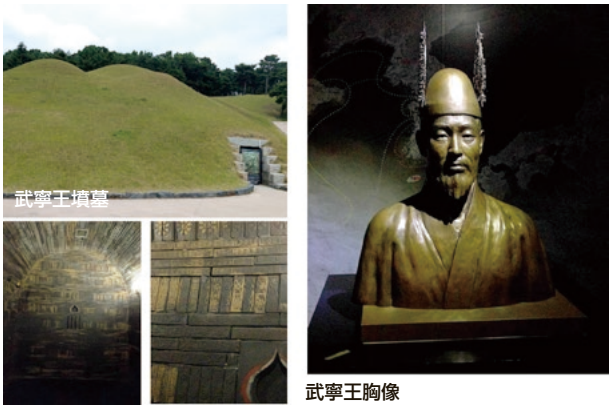
公山城（コンサンソン）豆知識（KONESTエリアガイドによる）

公州（コンジュ）（百済時代は熊津（ウンジン））は百済が高句麗に侵攻されたので、文周王が漢城（現在のソウル）からに逃移･遷都（475年）し、文周王、三斤王、東城王、武寧王、聖王の5代64年間首都であった。公山城（熊津城）は文周王が築いた山城で錦河に面しており、首都を外敵から守る役割を担っていたという。公山城は110mの公山の頂上から西側の峰にかけた稜線と渓谷に沿って、長方形に取り囲む城壁によって包囲されている。城壁はほとんどが改修されており、東西に約800m、南北に約400m、全長2,660mになる。もともとは土城だった公山城は、朝鮮時代に現在の石城に改築された。

入山料を払い錦西楼（クムソル）から入場。城壁の上は遊歩道となっている。一周徒歩で1時間との案内なので歩き始めると、街を俯瞰する展望楼があったり、錦河からの入船場（挽河楼）があったりで起伏はかなりきつい。後で気付いたことだが、東西南北の各門近くではそれぞれ青龍、白虎、朱雀、玄武の四神の旗が翻っており、自分が公山城のどの方角にいるか

写真９ 公山城（熊津城）

写真 10 宋山里古墳群



武寧王玄室（レプリカ）　武寧王胸像

が判断できるようにしてあった。地元の人にはこの城壁は健康推進散歩コースらしく、皆さんトレーニングウエアを着て速足で歩いている。大汗をかきながら山頂の王宮推定地に至った時に、大阪出身のＫさんに電話がはいり、大阪の北部・高槻市辺りで、かなり強い地震があったことを知る。

公山城から宋山里古墳群へ炎天下を徒歩で向かう。

宋山里古墳群豆知識（KONESTエリアガイドによる）。

宋山里古墳群には王族の７つの墓が群集している。武寧王（在位502～523年）の陵以外の６墓は盗掘されて誰の墓かは不明だが、武寧王陵は1971年に偶然に発見され、1500年前そのままの完全な状態で発掘され、墓誌石から被葬者は武寧王とその王妃であることが分かった。１～５号墳が石墓に対し、武寧王陵と６号墳は中国の影響を受けたと思われるトンネル型のレンガ造の墓である。

宋山里古墳群入口近くの模型展示館に入館し、冷房の効いた館内でまず休憩する。当館では武寧王陵の玄室が模様付きレンガで組立てられ、灯火置きが設けられている様子が再現され、副葬品等の発掘物のレプリカや王の胸像を展示している。また、当時のレンガの製法や墳墓建設の工法など紹介している。武寧王陵から発掘された遺品や墓誌から、当時の様子を再現できたとのこと。武寧王の棺は朝鮮半島では生育しない日本のコウヤマキ製であるとのことから、当時の百済と倭国の密接な交流に思いを馳せる。模型館から出て、古墳群の遊歩道を散策する。むしろ小型と思える横穴式の古墳が群集（写真10）している。日本の古墳時代後期と宋山里古墳群築造時期が同時期であるが、類似性はない。

なお、武寧王陵の出土遺物のほとんどは国立公州博物館に保管されているが、当日は休館日であり、残念ながら拝観することはできなかった。

宋山里古墳群から旧市街の公山州市場まで徒歩で戻ると、時刻は2時近くで、空腹を覚える。韓国風うどん屋を見つけ、入店する。隣席の若者が白いスープのうどんを食していたので同じものを注文する。豆乳スープの淡白味の冷うどんであり、気に入った。

遅い昼食後、ホテルに戻り荷物をピックアップし、公州バスターミナルへ。公州から大田へ行き、大田駅からKTXで東大邱駅に戻りホテルにチェクイン。今回の韓国旅行ではいまだ焼肉を味わっていないので、ホテルで焼肉屋さんを教えてもらう。旅行中一度も焼肉を食べていなかったので期待していったが、残念な気持ちでホテルに戻る。

6月19日

早朝6時過ぎにホテルから大邱空港へ向かい、ほぼ定刻通りのフライトで昼前に成田空港着。空港で解散。

今回の旅行では百済遺跡と韓国の食を楽しむことができたが、見落とし食べ残しも多く、物足りなさを感じている。体が動くうちに、ゆっくりと再訪したいとの気持ちが募ってきた。

また、印象的だったのは「韓国ではキャッシュレス化が進んでいる！」だ。交通（鉄道、バス、タクシー）料金は言わずもがな、街中の食堂や観光地の入場料等、些少の額でもカード支払いOKで、在韓中、通貨交換の必要なくとても便利であった。

（日動協ホームページ、LABIO21カラーの資料の欄を参照）